

## 全体総括

○計画期間：平成27年4月～令和2年3月（5年0月）

### 1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市は、平成27年3月27日に第2期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、「人々が行き交いまちの鼓動が聞こえる城下（まち）～高質なストックを活かした、街なかの「にぎわい」と「活力」の増大～」を基本テーマに、実現に向けた4つの基本方針のもと、同計画に掲げる43事業の推進に取り組んできた。

まずハード事業では、姫路駅を中心とする姫路駅周辺土地区画整理事業や姫路城から姫路駅を結ぶシンボルロードである大手前通り再整備事業、キャスティ21コアゾーン整備事業など第1期計画に引き続き姫路駅周辺の整備事業に取り組んできた。駅前広場においては、トランジットモールの導入により、歩行者のための環境空間が大幅に拡充された。あわせて「キャッスルガーデン」や「芝生広場」といった特色ある施設も整備され、市民や観光客の憩いやくつろぎ、また相互に交流する場として好評を得ている。

また、新駅ビルや地下街、周辺商店街等への民間投資により、一体感のある魅力的な駅前空間が誕生したことで、中心市街地において大規模小売店舗が6店舗、ホテルが10軒（約1,900室（平成22年～令和元年））が新たに開業し、マンションも37棟（平成26年～29年）が建設されるなど、中心市街地の魅力と価値の向上により、民間投資が誘発され、居住者や来街者が増加するといった好循環が生まれている。

世界文化遺産・姫路城は、平成の大修理を経たグランドオープンから5年が経過したが、令和元年度の年間来城者数は、目標としている150万人を上回る約154万人となり、改修前の約110万人と比べると大幅に増加した状況が続いている。さらに、外国人観光客の注目度も依然として非常に高く、令和元年度は過去最高となる約39万人もの外国人観光客が姫路城を訪れており、本市の観光客誘致に大きな役割を果たしている。

次にソフト事業では、コミュニティサイクル事業や姫路駅北駅前広場活用事業、商店街空き店舗対策事業、まちなか創業支援事業など、中心市街地のにぎわいや魅力づくりに向けた取組みを行ってきた。

姫路駅北駅前広場では、音楽ライブやマルシェなど、年間を通じて多様なイベントが行われ、安定して高い稼働状況が続いており、駅前広場の利活用が広く定着している。

また、中心市街地における空き店舗の解消と個性的かつ魅力的な店舗の開店を促進させるため、起業・創業を目指す地元の若者等へ創業セミナーの開催や店舗の開店に必要な経費の支援を行っている。

しかしながら、空き店舗数は未だ目標値に達しておらず、姫路城や姫路駅周辺の来街者を、商店街エリアへ十分に誘引できていないことや、来街者の中心市街地での滞在時間が短いこと（観光動向調査：日帰り72.8%、宿泊27.2%）等が要因と推察される。

今後、中心市街地での回遊性や滞留性をより一層向上させるため、ソフト事業の充実を図る。再整備が完了した大手前通りを、居心地の良い滞留空間にするとともに、歩道を活用し沿道の民間事業者が賑わいづくりを行うための仕組みづくりや、姫路駅にも近く家賃も安価な駅西エリアでは、空き店舗等の遊休不動産を活用したリノベーションまちづくりを進めることにより、民間を主体とした持続可能なまちづくりの推進とエリアマネジメントの実現に向けた体制の構築を公民が一体となって推進していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成 26 年度 (計画前年度)	平成 27 年度 (1 年目)	平成 28 年度 (2 年目)	平成 29 年度 (3 年目)	平成 30 年度 (4 年目)	令和元年度 (最終年度)
人口	9,420 人	9,586 人	9,766 人	9,916 人	10,407 人	10,807 人
人口増減数	該当区域単位の 集計情報なし	166 人	180 人	150 人	491 人	400 人
自然増減数	該当区域単位の 集計情報なし	△31 人	2 人	△11 人	△19 人	△6 人
社会増減数	該当区域単位の 集計情報なし	197 人	178 人	161 人	510 人	406 人
転入者数	該当区域単位の 集計情報なし	1,420 人	1,168 人	1,280 人	1,612 人	1,401 人

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね順調に進捗・完了した

②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

計画していた事業は主要事業であるキャストィ 21 コアゾーン等の整備をはじめ、43 事業が概ね順調に進捗・完了したといえる。姫路駅周辺土地区画整理事業や大手前通りの再整備事業等の都市基盤整備により中心市街地の状況が大きく変化した。第 1 期及び第 2 期計画期間の 10 年間で、姫路駅北駅前広場の整備や、キャストィ 21 コアゾーンにおける都市型ホテルやシネマコンプレックスを核とした商業施設の開業による集客効果のほか、ソフト事業も順調に進捗してきたこともあり、本市の中心市街地を訪れる人が増加(歩行者・自転車通行量：63,639 人/日(基準値)⇒70,434 人/日(令和元年度))した。

中心市街地エリア内にマンション等の集合住宅が多数建設されており、「生活利便施設の充実」等の理由より、子育て世帯など若者世代が増加(中心市街地マンション居住者意識調査より)している。また、65 歳以上の高齢者人口は、市全体と中心市街地ともに増加傾向にあるが、高齢者人口比率をみると、中心市街地の比率は低下(平成 27 年度：24.0%→平成 31 年度：22.6%)していることから、中心市街地への若い世代の流入がうかがえる。

さらに、姫路駅前の公示地価が平成 27 年に 92 万円/㎡であったのが、令和 2 年には 170 万円/㎡となる(平成 30 年から平成 31 年にかけては、変動率は 25%の上昇(地方圏商業地において全国 7 位)を記録)など、中心市街地の魅力や価値が向上したことにより、地価も姫路駅周辺を中心に上昇傾向が続いている。

一方で、増加傾向にある来街者を商店街エリアへ十分に誘引できていないことなど、依然として中心市街地全体への回遊させる取組みが必要であると考えます。

また、中心市街地で創業を希望する方への支援による魅力的な店舗づくりや、商店街の空き店舗に出店する場合の賃料支援など、空き店舗数の改善に向けた取組みを積極的に実施してきたが、目標達成には至らなかった。空き店舗数の改善については、次期計画

においても、より手厚い支援が行えるよう支援策を拡充するなど目標達成を目指し、積極的に取り組んでいく。

このような状況を勘案し、本市中心市街地においては若干の活性化が図られたと考える。

#### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

##### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

##### 【詳細を記載】

姫路市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整しながら 中心市街地活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業等は概ね順調に実施されたと考える。

中心市街地の開発では、J R姫路駅周辺の商業施設（ピオレ姫路、テラッソ姫路など）の開業に伴う交流人口の増加をはじめ、駅前広場の空間整備による街なかの賑わい 創出等、中心市街地の新たな都市機能の配置が来訪者の増加に繋がり、中心市街地活性化に寄与したものと評価している。

また、駅周辺整備の進展に伴うまちの魅力向上は、来街者の増加だけでなく、マンション建設等の民間投資を呼び込み、「まちなか居住」の推進に繋がっている。更に、現在、イベントゾーンに建設中の文化コンベンションセンターや医療センターは第3期計画中に供用開始予定となっており、これら新たな都市機能は、更に広域より人を引き寄せ播磨の中核としての役割を果たすものと期待を寄せている。しかし、中心市街地の商業の集積地である商店街に目を向けると、その中核であった「ヤマトヤシキ姫路店」の閉店に伴う影響は大きく、今後跡地の再開発の動向も見極めながら、駅周辺の開発とあわせて注視していく必要がある。

一方、ハード整備の充実が見られる中で、中心市街地の賑わい創出の原動力となる多くの団体が様々な取り組みを始めているが、個々の活動は来街や回遊促進に繋がる効果的な情報発信に課題が残っている。

このように、情報発信の一元化等課題を抱える実情であるが、中心市街地の魅力を広く伝え、将来的にはエリアマネジメントの実現を展望しつつ、今後も公民一体となって取り組んでいく必要がある。

#### 5. 市民意識の変化

##### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

##### 【詳細を記載】

姫路市総合計画市民アンケート

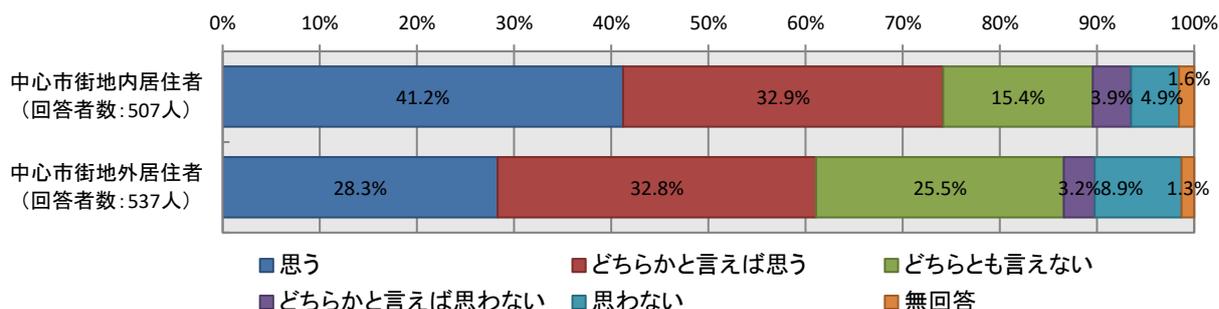
調査日：令和元年8月23日～9月13日

調査方法：市民 3,000 人を無作為抽出しアンケートを郵送  
有効サンプル数：1,044 人

計画期間前後で、「中心市街地に賑わいがあるか」という市民意識は改善していることに加え、「中心市街地の魅力」についても向上したという意見が多かった。

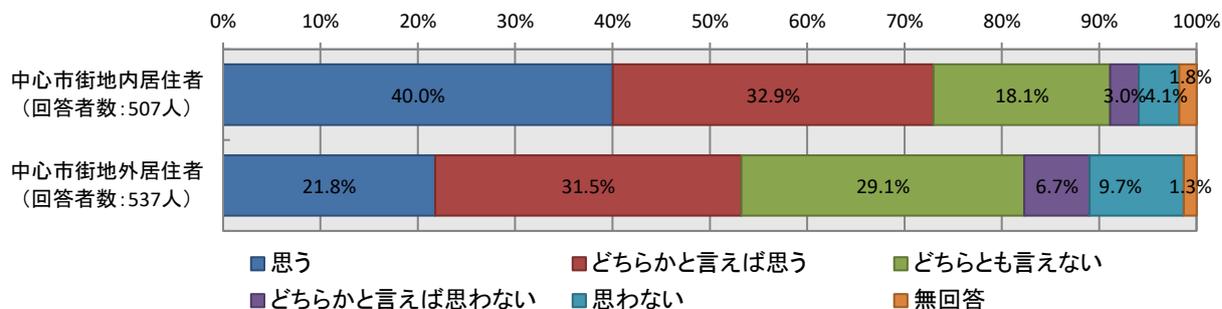
< 「中心市街地に賑わいがあるか」という設問について >

最近 5 年間で、中心市街地では、にぎわいが出てきたと思いますか？



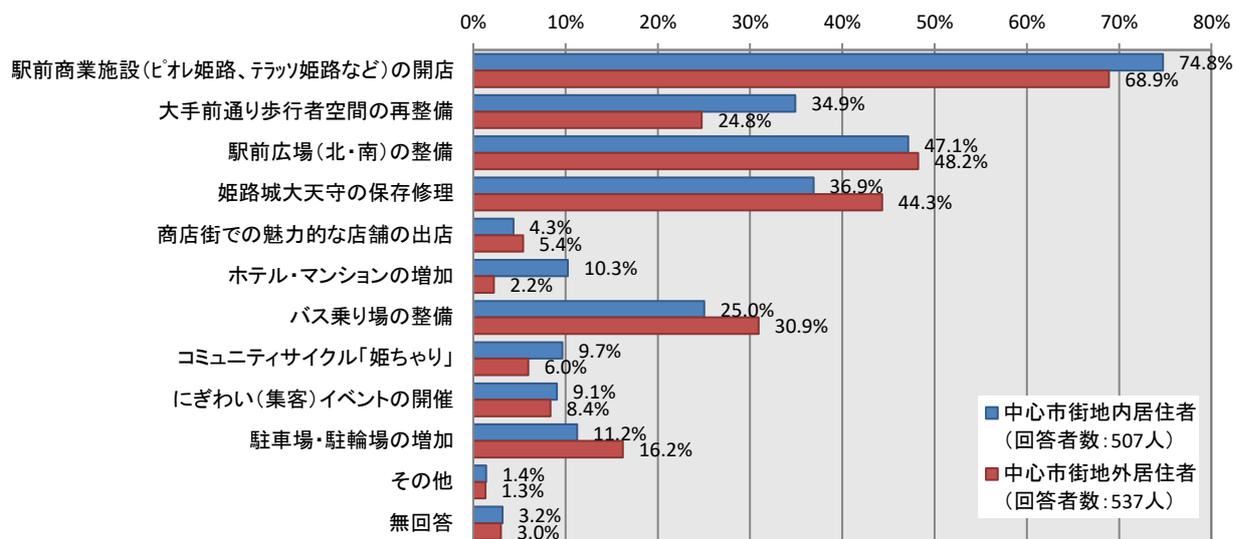
中心市街地内居住者では、にぎわいが出てきたと思う、または、どちらかと言えば思うとの肯定的な回答があわせて約 74%、中心市街地外居住者では約 61%と、居住地に関わらず半数以上の人为中心市街地に対して肯定的な回答になっている。

最近 5 年間で、中心市街地は行きたい場所になったと思いますか？



中心市街地内居住者では、中心市街地は「行きたい」、または、「どちらかと言えば行きたい」場所になった、との肯定的な回答があわせて約 73%、中心市街地外居住者では約 53%と、居住地に関わらず半数以上の人为中心市街地に対して肯定的な回答となっているが、居住地により約 20%の差が見られる。

最近 5 年間で中心市街地の取組みや変化で、特に良かったと思うことはどんなことですか？



最近5年間での中心市街地の取り組みや変化で特に良かったと思うことは、居住地に関わらず、「駅前商業施設（ピオレ姫路、テラッソ姫路など）の開店」、「駅前広場（北・南）の整備」、「姫路城大天守の保存修理」、「大手前通り歩行者空間の再整備」が上位を占めている。「姫路城大天守の保存修理」は中心市街地外居住者が約7ポイント、「大手前通り歩行者空間の再整備」は中心市街地内居住者が約10ポイント上回っている。

## 6. 今後の取組

中心市街地エリア内での市民や来街者のさらなる回遊を促し、賑わいを創出していくためにも、姫路駅と姫路城を結ぶ南北の動線だけではなく、東西の動線軸にも核となる賑わいを生み出すことで、線から面として賑わいを波及させていくことが重要である。

今後は、これまでの2期にわたる計画の成果を活かしながら、引き続き、公民が一体となって中心市街地の魅力をさらに高め、国内外の人々が行き交い愛され、市民が愛着を持つ城下（まち）を目指すため、文化コンベンションセンターの整備、大手前通りの魅力向上、リノベーションまちづくりの推進を核として取り組む。

姫路駅の東側には、播磨の中核都市にふさわしい文化交流の拠点機能と、「ものづくり力の強化」、「地域ブランドの育成」、「交流人口の増加」を促進させる機能を併せ持った、姫路市文化コンベンションセンターを整備する。姫路駅からつながる屋根付き歩行者デッキ等を併せて整備することで、安全・快適で魅力ある歩行者空間を創出する。

姫路駅の西側では、空き店舗等の遊休不動産を活用したリノベーションまちづくりを推進する。民間事業者等のノウハウを活用した取組みを支援し、エリア価値の向上を目指す。卸売市場として200以上の店舗が建ち並ぶエリアであったが、現在は空き店舗等の遊休不動産が増加し、かつての賑わいが失われつつある。リノベーションまちづくりの推進により、遊休不動産の増加や後継者不足といった地域の課題解決を図るとともに、若者がチャレンジしやすい環境づくりに取り組み、活力と賑わいのあるエリア再生を目指す。

また、姫路駅と姫路城をつなぐメインストリートである大手前通りの再整備が行われた。姫路のメインストリートにふさわしい高質な空間と拡張された歩道を活用し、単なる通りから、訪れる方がゆったりと滞留できる居心地の良い空間へと変化させるとともに、沿道の用途やデザインルールなどを、公民が連携しながら検討を進め、沿道の賑わいが通りへ滲み出すような魅力的な空間創出とエリア価値の向上を目指す。

それぞれのエリアにおいて賑わいの核となる取組みを充実させていくことにより、エ

リア価値を高め、賑わいを中心市街地全体へ波及させていく。

今後も効果を継続していくことが重要であることから、目標の達成状況に関する評価指標に基づく評価を行い、PDCA サイクルを継続する。

(参考)

### 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標値の 80%	最新値		達成 状況
					(数値)	(年月)	
新たな魅力の創出と移動環境の向上による来訪者数の増加	歩行者・自転車通行量	63,639 人/日 (H22~25 平 均値)	82,000 人/日 (R1 年度)	78,328 人/日 (R1 年度)	70,434 人/日	平成 31 年 4 月	B2
新陳代謝の促進による街なか(商店街)の活性化	空き店舗数	36 店舗 (H25 年度)	28 店舗 (R1 年度)	30 店舗 (R1 年度)	35 店舗	令和 2 年 3 月	B2
多世代が快適・便利に暮らせる居住環境の向上	居住者数	8,797 人 (H25 年度)	8,894 人 (R1 年度)	8,875 人 (R1 年度)	10,801 人	令和 2 年 3 月	A
市民が躍動できる仕組み・体制の構築	公共空間利 活用のルー ルのもとで 行われるイ ベント実施日 数	286 日/年 (H25.9~ H26.8)	321 日/年 (R1 年度)	314 日/年 (R1 年度)	415 日/年	令和 2 年 3 月	A
(補完指標)	中心市街地 に対する市 民の評価	42.7% (H26 年度)	50.0% (R1 年度)	48.5% (R1 年度)	55.7%	令和元年 9 月	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b1、b2、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の 80% を達成。)

B2 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の 80% には及ばず。)

b1 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の 80% を達成。)

b2 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の 80% には及ばず。)

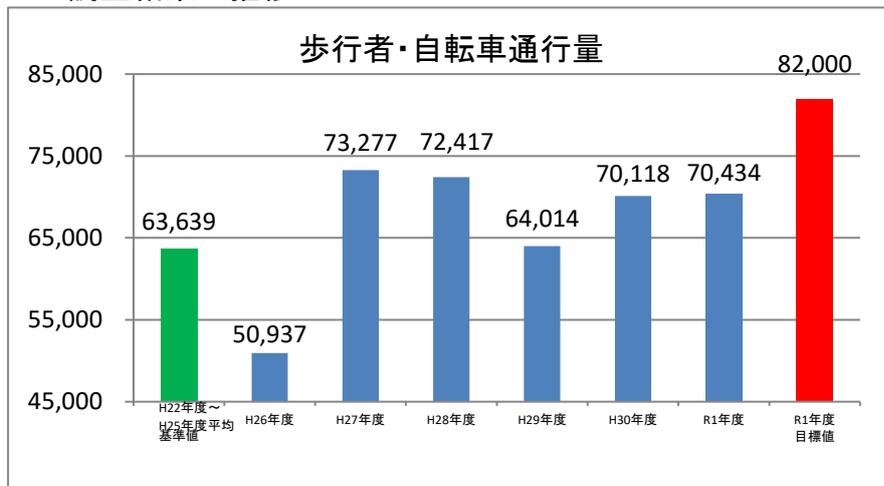
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P72～P79 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H22 ～25	63,639 人/日 (基準年値)
H27	73,277 人/日
H28	72,417 人/日
H29	64,014 人/日
H30	70,118 人/日
R1	70,434 人/日
R1	82,000 人/日 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査

毎年4月29日に7地点において10時～18時で計測

※調査月：平成31年4月29日実施、5月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内7地点における歩行者及び自転車の通行量

### 2. 目標の達成状況【B2】

歩行者・自転車通行量の増加に向けた主要事業として位置付ける各事業については、おおむね予定どおり完了した。キャストィ21コアゾーンの各ブロック整備事業により新たな商業施設等が開業したことで、姫路駅から東側への通行量の増加に寄与し、コミュニティサイクル事業についても、観光客だけではなく市民の利用も定着してきており、通行量の増加に効果があったと考えられる。しかしながら、姫路城を訪れる観光客やキャストィ21コアゾーンへの来街者を十分に商店街エリア等へ誘引し、回遊を促すことができなかったこともあり、目標値に対する達成率は約37%であったため達成状況をB2とした。

### 3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ①. キャスティ21コアゾーン（Aブロック）整備事業（マルイト株）

事業実施期間	平成26年度～平成29年度【済】
事業概要	国際都市・姫路の魅力をより高める、上質でアメニティ溢れる都市型ホテルを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	[歩行者等通行量]（調査地点：ホテルモンテ姫路北南） 平成27年度 1,223人/日 平成28年度 10,988人/日 平成29年度 10,976人/日 平成30年度 13,103人/日 平成31年度 7,022人/日
達成した（出来なかった）理由	平成31年度調査当日は雨天であり、通行量は前年度まで増加傾向であったのが減少に転じたが、コアゾーンの屋根付

	<p>き歩行者デッキであるキャストウォークに人通りが流れたためと考える。</p> <p>(参考：キャストウォークの調査地点(ホテルモントレ姫路・テラッソ姫路間)平成31年度 7,637人/日)</p>
計画終了後の状況 (事業効果)	<p>平成30年3月23日にオープンしたホテルモントレ姫路は、姫路駅前の都市型ホテルとして、国内外からの観光客の受皿となっており稼働率も高い状況が続いている。</p> <p>また、宿泊以外にも、結婚式場やコンベンション機能も有していることから、様々な用途で活用されており、来街者の増加に大きく寄与している。</p>
事業の今後について	<p>整備事業は完了している。今後は、当該施設の利用者・宿泊客により一層中心市街地を回遊してもらうため、周辺商業施設や商店街と連携して滞在時間を増やす取組みを推進する。</p>

②. キャスティ 21 コアゾーン (B ブロック) 整備事業 (エミス株)

事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	シネマコンプレックスを核とした商業施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定(経済産業省)平成27年度</li> <li>・ 大規模小売店舗立地法の特例(経済産業省)平成27年度</li> <li>・ 商店街まちづくり事業(中心市街地活性化事業)(経済産業省)平成27年度</li> <li>・ 株式会社日本政策金融公庫による低利融資(経済産業省)平成27年度</li> <li>・ 当該事業の用に供する建築物及び構築物を取得した際の割増償却制度(経済産業省)平成27～28年度</li> <li>・ 当該事業の用に供する不動産の取得又は建物の建築をした際の登録免許税の軽減(経済産業省)平成27～28年度</li> </ul>
目標値・最新値及び達成状況	<p>[歩行者等通行量](調査地点：テラッソ姫路西)</p> <p>平成27年度 994人/日</p> <p>平成28年度 9,000人/日</p> <p>平成29年度 10,446人/日</p> <p>平成30年度 10,994人/日</p> <p>平成31年度 6,764人/日</p>
達成した(出来なかった)理由	<p>平成31年度調査当日は雨天であり、通行量は前年度まで増加傾向であったのが減少に転じたが、コアゾーンの屋根付き歩行者デッキであるキャストウォークに人通りが流れたためと考える。</p> <p>(参考：キャストウォークの調査地点(ホテルモントレ姫路・テラッソ姫路間)平成31年度 7,637人/日)</p>
計画終了後の状況 (事業効果)	<p>平成27年7月24日にテラッソ姫路がオープンして以降、シネマコンプレックスの集客効果などにより、当該施設周辺では通行量が大きく増加している。</p> <p>また、平成30年度には、駅ビル(ピオレ姫路)からキャスト 21 コアゾーンの各施設をつなぐ歩行者デッキ(キ</p>

	ヤスティウオーク)が整備されたことにより、雨天時等でもアクセスが容易になるなど、新たな歩行者動線が生まれ、利便性が向上している。
事業の今後について	整備事業は完了し、姫路駅周辺の大型商業施設として、来街者の増加に大きな役割を果たしている。 また、周辺の商業施設や商店街と連携した賑わいづくりにも継続して取り組んでいることから、今後も中心市街地の活性化に大きく寄与していくことが期待される。

③. キャスティ 21 コアゾーン (C ブロック) 整備事業 (学神戸滋慶学園)

事業実施期間	平成 26 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	医療系分野を中心とした専門学校などを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	[歩行者等通行量] (調査地点：キャスティウオーク (テラッソ姫路・姫路医療専門学校間)) 平成 31 年度 529 人/日 (平成 31 年度より歩行者等通行量調査集計開始)
達成した(出来なかった)理由	医療専門学校が開校されたことにより、人通りは増加しているが、開校間もないこともあり、複数年の通行量調査は実施できていない。
計画終了後の状況(事業効果)	平成 29 年 7 月にフィットネスジムが開業し、平成 30 年 4 月には医療専門学校(姫路医療専門学校)の開校、また同年 9 月には健康生きがい開発棟(高齢者住宅・保育所・クリニック)の供用も開始され、全ての整備事業が完了した。当該施設の供用開始により、これまで人の流れがなかったエリアに人が流れて、回遊性の向上につながっている。
事業の今後について	整備事業は完了している。今後は、当該専門学校の学生や施設利用者の増加により、中心市街地の賑わい創出や回遊性向上への効果が期待される。

④. コミュニティサイクル事業(姫路市)

事業実施期間	平成 28 年度～令和元年度【実施中】
事業概要	都心部で、自由に乗り降りできるコミュニティサイクル(姫ちやり)を導入する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(姫路駅周辺地区(第 2 期))と一体の効果促進事業)(国土交通省) 平成 28 年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	[利用者数] 平成 27 年度 9,605 人/年(社会実験時) 平成 28 年度 23,764 人/年(本格導入 7 月～3 月) 平成 29 年度 53,940 人/年 平成 30 年度 69,833 人/年 令和 元年度 82,350 人/年
達成した(出来なかった)理由	使いやすさ(基本料金 100 円で 1 回の使用時間が 1 時間以内であれば 1 日に何度利用しても追加料金は不要)と利便

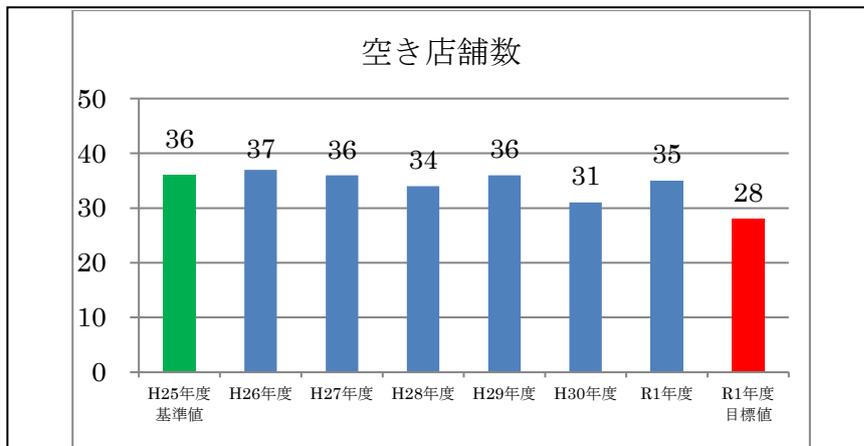
	性の良さ（サイクルステーションは中心市街地を中心に 20 箇所）が市民・観光客に広く周知されてきた結果、利用者は大幅に増加している。
計画終了後の状況 （事業効果）	中心市街地へ公共交通で来られる方への二次的な交通手段として、中心市街地の回遊性と魅力の向上、また地域及び観光の活性化につながった。
事業の今後について	今後は、観光客や買い物客等の中心市街地における滞在時間を延ばす取組みと連携することにより、更なる中心市街地での回遊性向上を図る。

#### 4. 今後の対策

歩行者・自転車通行量増加に向けた事業について、おおむね予定通り進捗・完了したものの目標数値の達成には至らなかった。キャスト21コアゾーンや姫路駅周辺の整備により、姫路駅周辺の商業施設における集客数は順調に伸びていることから、これらの商業施設への来街者を大手前通りや商店街エリアへ誘引するとともに、人の流れを姫路駅と姫路城を結ぶ南北間だけではなく、今後文化コンベンションセンター等が整備される東方向、また遊休不動産を活用したまちづくりを進める西方向へと広げていくことで、中心市街地全体の回遊性向上を目指す。

「空き店舗数」※目標設定の考え方認定基本計画 P80～P82 参照

#### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H25	36 店舗 (基準年値)
H27	36 店舗
H28	34 店舗
H29	36 店舗
H30	31 店舗
R1	35 店舗
R1	28 店舗 (目標値)

※調査方法：現地調査（毎年3月末）

※調査月：令和2年3月末実施、4月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内 15 商店街

#### 2. 目標の達成状況【B2】

空き店舗数の改善に向けた各事業については、予定どおり実施したものの、目標達成には至らなかった。商店街の魅力づくりに向けた取組みや、創業希望者への支援など、空き店舗数の改善に向けた取組みを商店街の意見を聞きながら推進してきたが、商店街エリアの中心にあった老舗百貨店が平成30年2月に閉店したことが大きく影響し、目標値の達成には至らなかったため、達成状況はB2とした。

#### 3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 中心市街地商店街空き店舗対策事業（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）

事業実施期間	平成13年度～令和元年度【実施中】
事業概要	中心市街地商店街内の空き店舗への出店に対し、家賃補助等を行う。外部関係者と連携し、モデル商店街でのテナントミックスやチャレンジショップ実現に向けた事業を展開する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）平成27年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	〔中心市街地商店街空き店舗対策事業 新規支援件数〕 平成27年度 8件/年 平成28年度 9件/年 平成29年度 5件/年 平成30年度 11件/年 令和元年度 6件/年
達成した（出来なかった）理由	姫路駅周辺を中心に公示地価も上昇傾向にあるなど、基盤整備等による中心市街地の魅力向上に伴い、商店街エリアにおいても賃貸物件の賃料が比較的高い状況が続いていることや、立地面でも駅から離れた場所に空き店舗が多くあることなども要因として、新規出店と退店が一進一退の状況である。
計画終了後の状況（事業効果）	当事業で新規出店に係る内装工事費や賃料の一部を支援することで、事業が軌道に乗るまでの負担が軽減されるため、創業・起業を目指す若者等が商店街でチャレンジしやすい環境づくりに寄与している。
事業の今後について	今後も、商店街やまちの事業者の声を聞きながら助成額の見直し等制度の拡充に取り組んでいく。

②. まちなか起業家支援事業（姫路市）

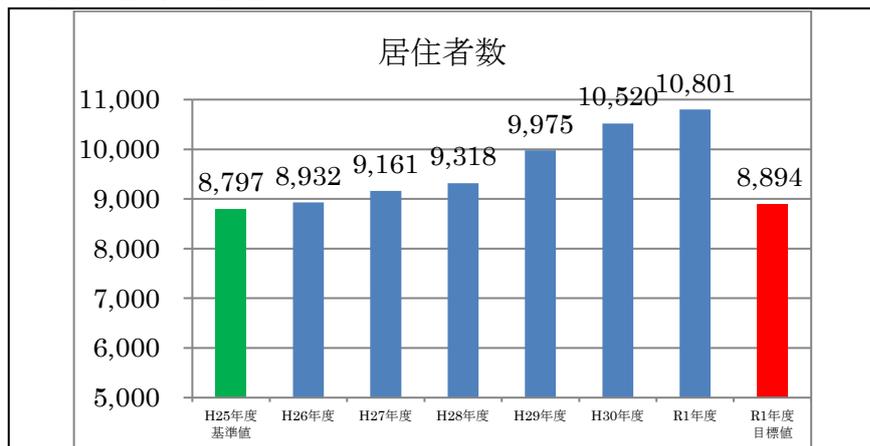
事業実施期間	平成27年度～令和元年度【実施中】
事業概要	街なかにおける起業家に対する支援事業を展開する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）平成27年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	〔まちなか創業支援事業 新規支援件数〕 平成27年度 2件/年 平成28年度 3件/年 平成29年度 3件/年 平成30年度 4件/年 令和元年度 6件/年
達成した（出来なかった）理由	制度が広く周知されるとともに、創業セミナーなど創業希望者をサポートする体制も充実させていることから、制度創設後、支援件数は順調に推移し、商店街以外のエリアにおいても飲食店を中心に魅力的な店舗が増えてきている。
計画終了後の状況（事業効果）	新たに魅力ある店舗が出店することにより、商店街以外のエリアにおいても人の流れが生まれ、賑わい創出とエリアの活性化が図られている。
事業の今後について	今後も、事業を継続していくとともに、制度の拡充に取り組み、若者がチャレンジしやすい環境づくりを進めていく。

4. 今後の対策

中心市街地商店街における空き店舗対策事業のさらなる充実や、意欲的な若者がチャレンジしやすい環境づくりなどにより、魅力ある店舗の出店を促進し、商店街の魅力向上や来街者の回遊を創出する。その取組みの一環として、姫路駅の西側エリアでは、空き店舗等の遊休不動産を活用したリノベーションまちづくりを進めていく。商店街とも連携を行いながら、エリア価値を高めていくことにより、空き店舗の改善を目指す。

「居住者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P83～P85 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H25	8,797 人 (基準年値)
H27	9,161 人
H28	9,318 人
H29	9,975 人
H30	10,520 人
R1	10,801 人
R1	8,894 人 (目標値)

※調査方法：中心市街地内の住民基本台帳登録人口（毎年3月末）

※調査月：令和2年3月末実施、5月とりまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内居住者

### 2. 目標の達成状況【A】

居住者数の増加に向けた各事業については、おおむね予定どおり実施・完了した。主要事業である姫路駅周辺土地区画整理事業のほか、大手前通り再整備事業やキャストィ 21 コアゾーン整備事業等により、中心市街地の魅力、街なか居住の魅力が向上し、民間事業者によるマンション建設も相次いだことから、目標値を大幅に上回る居住者数の増加となった。そのため達成状況は A とした。

### 3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ①. 駅南土地区画整理事業（姫路駅南西地区）（土地区画整理事業）（姫路市）

事業実施期間	平成19年度～令和3年度【実施中】
事業概要	姫路駅南西部の連立事業による旧鉄道用地等を都心部にふさわしい計画的な市街地として再生することを目的に、都市基盤施設の整備改善を行い、宅地の利用増進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（姫路駅周辺地区（第2期））（国土交通省）平成27年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：71人増 （新規住宅の供給30戸×本市の現況平均世帯人員2.38人/世帯） 最新値：424人増

	(延末・東延末・南畝町・南畝町 1 丁目 H26.3 : 592 人 ⇒ R2.3 : 1,016 人) 目標達成 (達成率 59%)
達成した(出来なかった)理由	事業区域内に大規模商業施設(イオンタウン姫路: 13,007 m <sup>2</sup> ) がオープンするなど、駅南エリアの都市基盤整備が進み、居住地としての魅力が向上したことで目標達成に至った。
計画終了後の状況(事業効果)	当該土地区画整理事業により街区形成と居住環境の向上が図られるとともに、姫路駅周辺整備事業等による都市基盤整備に伴い、エリア周辺では、民間事業者によるマンションの建設が進み、中心市街地の居住人口は依然として増加傾向にある。
事業の今後について	今後も引き続き、支障物件の移転交渉と区画道路の築造を進め、令和 3 年度の事業完了を目指す。

## ②. 姫路駅周辺土地区画整理事業(姫路市)

事業実施期間	平成元年度～令和 3 年度【実施中】
事業概要	JR 姫路駅を中心とする南北市街地の一体化を図る交通体系の確保、都市計画道路、公園、河川等の公共施設の整備改善を行い、新都心拠点としてふさわしい街区を形成し、多様な機能立地を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(道路事業(街路))(国土交通省) 平成 27～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値: 167 人増 (新規住宅の供給 70 戸×本市の現況平均世帯人員 2.38 人/世帯) 最新値: 165 人増 (高尾町・神屋町・朝日町・西駅前町・南駅前町・駅前町 H26.3 : 474 人 ⇒ R2.3 : 639 人) 目標達成 (達成率 98%)
達成した(出来なかった)理由	当該土地区画整理事業により、中心市街地への都市機能の集積が進み、多世代が快適・便利に暮らすことのできる居住環境の向上と居住地としての魅力向上が図られた。
計画終了後の状況(事業効果)	当該土地区画整理事業の進捗に合わせて、事業区域やその周辺に民間事業者によるマンションの建設が進み、中心市街地の居住人口の増加が図られている。
事業の今後について	今後も引き続き、支障物件の移転交渉と内環状東線の 4 車線化等を進め、令和 3 年度の事業完了を目指す。

## 4. 今後の対策

キャストイ 21 イベントゾーンに新たに整備される姫路市文化コンベンションセンターは、文化芸術の拠点(音楽公演や舞台芸術などをはじめ、講演会やパネルディスカッション等多彩な催事に対応できる施設)として、また同じくイベントゾーンに整備される県立はりま姫路総合医療センター(仮称)は、高度専門・急性期医療や質の高い教育を提供する播磨の中核的医療施設として、さらに中心市街地の魅力を向上させ、新たな居住者を街

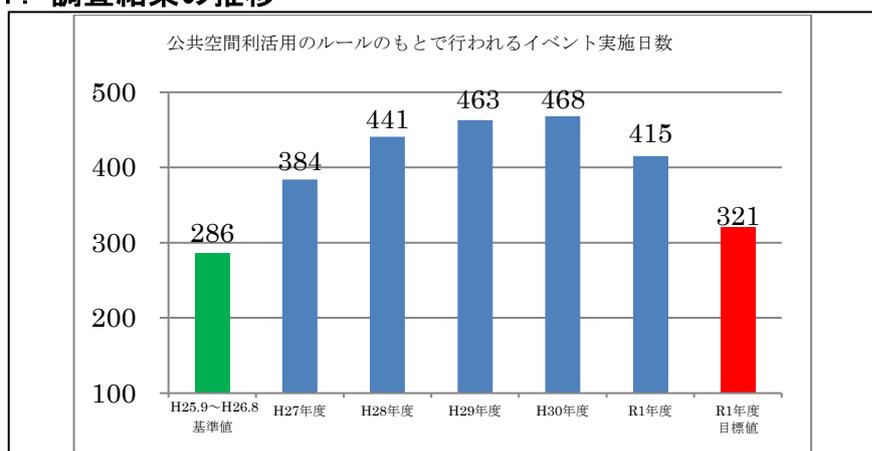
なかに呼び込むものとする。

今後も、商店街をはじめ商業施設や民間事業者と連携してまちの魅力を高めることで来街者を呼び込み、中心市街地を回遊してもらう取組みを行うことで、中心市街地全体に賑わいの効果を波及させ、さらに実績を伸ばしていきたい。

## 「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P86～P88

### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H25.9 ～ H26.8	286 日/年 (基準年値)
H27	384 日/年
H28	441 日/年
H29	463 日/年
H30	468 日/年
R1	415 日/年
R1	321 日/年 (目標値)

※調査方法：施設管理者調査（報告）等（毎年3月末）

※調査月：令和2年3月末実施、4月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：姫路駅北にぎわい交流広場（姫路駅北駅前広場）、大手前公園、  
中心市街地内15商店街  
(各エリアで行われるイベント実施日数を足し合わせる)

### 2. 目標の達成状況【A】

公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数の増加に向けた各事業については、おおむね予定どおり実施した。姫路駅北駅前広場については、令和元年度にオープンから5年を迎え、週末だけではなく平日においても、多彩なイベントが行われるなど、依然として高い稼働率で活用されている。また、各商店街でも販売促進やにぎわい創出のため趣向を凝らしたイベントが行われ、大手前公園においては、週末を中心に大規模な集客イベントが数多く開催されるなど、基準値と比較して目標値を大幅に超える結果となった。そのため達成状況はAとした。

### 3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ① 姫路駅北駅前広場活用事業（姫路市、市民団体、商店街等）

事業実施期間	平成27年度～令和元年度
事業概要	市民による姫路駅北駅前広場の活用（継続的なイベントの開催）を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	[姫路駅北駅前広場の活用日数] 目標値 148日/年 平成27年度 240日/年

	平成 28 年度 304 日/年 平成 29 年度 317 日/年 平成 30 年度 324 日/年 令和 元年度 296 日/年 目標達成 (達成率 200%)
達成した(出来なかった)理由	使用料が安価であることと立地の良さにより、イベント使用が増加している。また、オープンから5年が経過し、イベントができる空間として広く周知されてきたことや、くちコミなどにより、県外からのイベント使用も増えるなど、さらなる広がりを見せている。
計画終了後の状況(事業効果)	安定した高い稼働率のもと、当広場を核とした中心市街地の賑わい創出と滞留時間の増加に大きく寄与している。
事業の今後について	今後は、指定管理者制度の導入など民間活力を活用した持続可能で効果的な管理運営体制の検討を進める。 また周辺商業施設や商店街と連携したイベントの実施により、広場を起点とした回遊促進に努めるとともに、播磨の玄関口にふさわしい空間づくりを行う。

②. 商店街にぎわい創出事業(姫路市、商店街、民間等)

事業実施期間	平成 27 年度～令和元年度【実施中】
事業概要	商店街等が、商店街の活性化のために実施する賑わい創出事業を展開する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)平成 27 年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	[商店街における活用日数] 目標値 67 日/年 平成 27 年度 64 日/年 平成 28 年度 66 日/年 平成 29 年度 71 日/年 平成 30 年度 60 日/年 令和 元年度 57 日/年 目標未達成 (達成率 85%)
達成した(出来なかった)理由	平成 30 年 2 月に、商店街の中心に位置する百貨店が閉店したことや、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛や休業要請の影響等でイベントの開催件数が減ったことが大きな要因となっている。
計画終了後の状況(事業効果)	商店街に対する様々な支援メニューにより、イベントや販売促進活動を支援し、商店街の魅力向上を図っている。 百貨店が閉店したことを受け、平成 30 年度には、商店街と商工会議所等が協力し、店舗跡地の一部を活用した情報発信拠点の開設や百貨店のシャッターを活用したアート事業など、商店街の活性化に取り組んだ。同取組みには県及び市も支援を行っており、公民が一体となって賑わいづくりを進めている。

事業の今後について	今後も引き続き、商店街の活性化に向けて事業を継続するとともに、支援メニューの見直し等により、商店街のニーズに沿った支援を進める。
-----------	------------------------------------------------------------------

### ③. 姫路公園活用事業

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【実施中】
事業概要	多彩なイベントの開催はもちろん、街なかの回遊拠点の1つとしてさらなる活用を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）平成27～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	[姫路公園における活用日数] 目標値 106日/年 平成27年度 80日/年 平成28年度 71日/年 平成29年度 75日/年 平成30年度 84日/年 令和元年度 62日/年 目標未達成 （達成率58%）
達成した（出来なかった）理由	週末を中心とする大規模なイベント等が多いため、平日は設置及び撤去に要することから件数が伸び悩んだ。また、令和元年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い例年より件数が減少した。
計画終了後の状況（事業効果）	市民だけではなく姫路城を訪れる国内外からの多くの方に利用されている。 また、中心市街地活性化のための大規模イベントが年間を通じて多数行われており、集客に大きく寄与している。
事業の今後について	今後も引き続き、日常における姫路公園の利用を促進するとともに、中心市街地の回遊拠点として、より一層の活用を図っていく。

## 4. 今後の対策

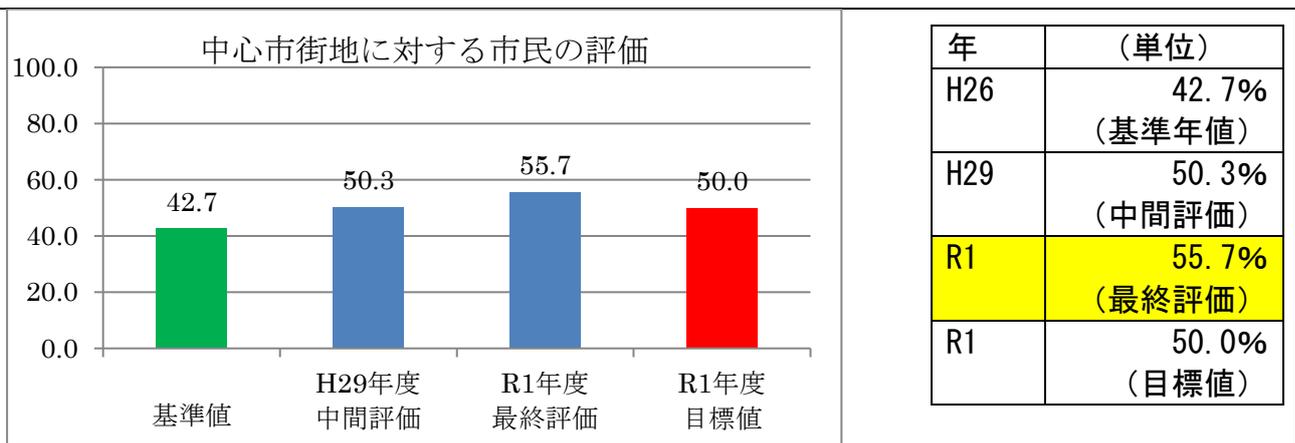
市民や観光客の憩いの広場として定着した姫路駅北駅前広場（姫路駅北にぎわい交流広場）の賑わいを有機的に組み合わせながら、商店街エリアや姫路公園（大手前公園）など、中心市街地全体で賑わいを創出させていく。

令和元年度より、大手前通りの再整備を機に、人が滞留し、賑わいと魅力ある空間づくりを進めるため、地元や沿道の民間事業者との公民連携による取組みが始まった。今後、大手前通りでの滞留時間の延長や、道路法等の法制度に基づく道路空間の活用に向けた取組みを行いながら、地元が主体となった持続可能なまちづくりを進める。

また、多様な主体が連携した取組みを推進し、効果的な情報発信を行うことで、それぞれが有する機能を最大限に発揮し、相乗効果による賑わいの創出を目指す。

「中心市街地に対する市民の評価」※目標設定の考え方認定基本計画 P89～P90 参照

### 1. 調査結果の推移



※調査方法：市内在住の20歳以上の者から、無作為抽出した対象者に郵送方式によりアンケート調査を実施

※調査期間：令和元年8月23日から令和元年9月13日まで

※調査主体：姫路市

※調査対象：3,000人（中心市街地内居住者1,500人、中心市街地外居住者1,500人）

## 2. 目標の達成状況【A】

令和元年度、中心市街地活性化に関するアンケートを中心市街地内外合わせて3,000人を対象として実施した。アンケート結果のうち、最近5年間での中心市街地の取組みや変化で特に良かったと思うことについては、居住地に関わらず、「駅前商業施設（ピオレ姫路、テラッソ姫路など）の開店」、「駅前広場（北・南）の整備」、「姫路城大天守の保存修理」が上位を占め、姫路駅周辺土地区画整理事業や姫路城から姫路駅を結ぶシンボルロードである大手前通り再整備事業の効果が伺える結果となった。

回答のあった1,044人のうち55.7%の方から中心市街地に対して満足しているという評価をいただき、基準値と比較して目標値を超える結果となった。そのため、達成状況はAとした。

「中心市街地に対する市民の評価」については、補完指標として、中間年及び最終年において評価を実施した。

## 3. 今後の対策

今後の課題として、アンケート結果においても「空き店舗が多い」、「店舗の営業時間が短い」、「魅力的・個性的な店舗が少ない」などの店舗に関する項目が上位を占めていることから、引き続き中心市街地商店街空き店舗対策事業やまちなか創業支援事業など、中心市街地のにぎわいや魅力づくりに向けた取組みを推進し、市民から更なる評価が得られる街なかを目指したい。